

びわ樹を改植し、作業性の良い樹形を目指す！

～びわにおける改植時の白紋羽病対策と整枝方法の研修会の開催～

安房農業事務所改良普及課 令和4年7月11日発

びわ産地では、令和元年房総半島台風により大規模な倒木などの甚大な被害があり、改植が進められています。一方、若手生産者の多くは大規模な改植の経験がないため、病虫害防除や整枝方法などの今後の管理に不安を抱えている人は少なくありません。

そこで農業事務所では、若手生産者組織である房州枇杷研究会※、JA安房、農林総合研究センターと連携し、改植前後の栽培管理方法を周知するための研修会を令和4年7月6日に開催し、16名が参加しました。農業事務所職員が講師となって、講義、実演を行い、生産者からは「早速、自分の園でも作業性の良い樹形を目指したい」と発言があり、その場で実践しました。また、「出来るだけ防除を実施したい」といった感想や「急傾斜地でも管理しやすい低樹高仕立てを知りたい」との要望もありました。当事務所では産地と連携し、産地を担う若手生産者育成に向けて活動していきます。

※房州枇杷研究会は、館山市、南房総市の若手びわ生産者42戸で構成される組織



びわ幼木の整枝方法を指導する様子



生産者が低樹高仕立てを実践！